

# 本書の構成

---

## 本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

本書をお読みになる前に

---

## 第1章 特長

本製品の特長について説明しています。

1

特長

---

## 第2章 動作環境の設定

本パソコンでの動作環境の設定について説明しています。

2

動作環境の設定

---

## 第3章 ソフトウェア

本パソコンに搭載されているソフトウェアについて説明しています。

3

ソフトウェア

---

## 第4章 トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

4

トラブル  
シューティング

# 目次

<b>本書をお読みになる前に</b>	5
本書の表記	5
商標および著作権について	7
<b>第1章 特長</b>	
1 本製品の特長	10
運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント	10
内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について	11
2 OSについて	12
Windows XP Embedded with Service Pack 2について	12
管理者権限とユーザー アカウント	12
Windows のパスワード	13
Internet Explorer	13
言語オプションの選択	13
ワイヤレス LAN 使用時の通信データの暗号化 (TC8210 の場合)	13
3 セキュリティ	14
<b>第2章 動作環境の設定</b>	
1 保護管理ツールについて	18
初期設定などを変更する	19
2 ディスプレイ関連	21
解像度と色数について	21
液晶ディスプレイの明るさ設定 (TC8210 の場合)	22
全画面表示と通常表示の切り替え (TC8210 の場合)	23
表示装置の切り替え (TC8210 の場合)	24
マルチモニタ機能 (TC8210 の場合)	27
外部ディスプレイの走査周波数について (TC8210 の場合)	29
3 音量の設定	31
画面上の音量つまみで設定する	31
キーボードで調節する (TC8210 の場合)	32
再生時／録音時の音量設定について	32
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える (TC8210 の場合)	35
4 通信	36
LANについて	36
ワイヤレス LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠)について (TC8210 の場合)	37
5 省電力	39
スタンバイ	39

注意事項	40
省電力の設定	41
スタンバイ状態にする	43
スタンバイ状態からの復帰	45
<b>第3章 ソフトウェア</b>	
1 ソフトウェア一覧	48
搭載ソフト一覧	48
各ソフトウェアの紹介	48
<b>第4章 トラブルシューティング</b>	
1 トラブルに備えて	54
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	54
自動車内での使用について	54
ドキュメントの確認	55
2 トラブル発生時の基本操作	56
本パソコンや周辺機器の電源を確認する	56
Safe モード	56
メッセージなどが表示されたらメモしておく	56
診断プログラムを使用する	57
3 起動・終了時のトラブル	58
4 OS・アプリケーション関連のトラブル	61
5 ハードウェア関連のトラブル	62
インターフェースのご使用について	62
ハードウェア関連のトラブル一覧	62
BIOS	63
内蔵 LAN	63
デバイス	64
PC カード（コンパクトフラッシュカードを含む）（TC8210 の場合）	65
スマートカード	65
バッテリ（TC8210 の場合）	65
ディスプレイ	66
サウンド	67
キーボード	68
マウス／ポインティングデバイス	68
USB	69
プリンタ	69
その他	70
6 それでも解決できないときは	71
お問い合わせ先	71
索引	73

## Memo

# 本書をお読みになる前に

## 本書の表記

### ■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

### ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 <b>重要</b>	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

### ■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

## ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「Internet Explorer」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「Internet Explorer」の順にクリックします。

## ■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」(コロン) の後に記述する場合があります。

例： 「メイン」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。

↓

「メイン」-「言語 (Language)」: 日本語 (JP)

## ■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## ■ カスタムメイドオプションについて

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量などの記載が異なります。ご了承ください。

## ■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
FMV-TC5210	TC5210	本パソコン／パソコン本体
FMV-TC8210	TC8210	
Microsoft <sup>®</sup> Windows <sup>®</sup> XP Embedded	Windows XP Embedded	Windows
Sony Felica リーダー／ライターソフトウェア	Felica リーダー／ライターソフトウェア	
Citrix Presentation Server <sup>TM</sup>	Citrix Presentation Server	

## ■ モデルの表記

本文中のモデルを、次のように略して表記します。

モデル	本文中の表記
ワイヤレス LAN (無線 LAN) 搭載	ワイヤレス LAN 搭載モデル
FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載	FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル
スマートカードホルダー添付	スマートカードホルダー添付モデル

## ■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットの URL アドレスは 2005 年 12 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください (→ 『取扱説明書』)。

## 商標および著作権について

Microsoft、Windows、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Intel、Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

FeliCa は、ソニー株式会社の登録商標です。

FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。

Citrix、MetaFrame・Citrix Presentation Server は、Citrix System, Inc. の米国あるいは、その他の国における登録商標です。

Portshutter は、株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーズの商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2005

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

## Memo

# 第1章

## 特長

本製品の特長について説明しています。

1 本製品の特長 .....	10
2 OSについて .....	12
3 セキュリティ .....	14

# 1 本製品の特長

## 運用面、セキュリティ面に優れたシンクライアント

本製品は、パソコン本体にハードディスクを持たないシンクライアントです。サーバー上にインストールされたアプリケーションを実行し、サーバー上にデータを保管するため、従来のパソコン（ファットクライアント）に比べて次のような特徴があります。

### ■ ユーザー管理やソフトウェア管理がしやすい

- サーバーへのログオンが必須となるため、サーバー側でユーザーを一元管理できます。
- ソフトウェアもすべてサーバーにインストールされるため、ユーザー間でソフトウェアのバージョンが違うなどのトラブルを防げます。また、ソフトウェアの変更やバージョンアップにかかるコストを大幅に削減できます。
- 管理外のソフトの無断インストールを防げます。また、ウィルスなどの対策もサーバー側で一元管理できます。

### ■ 故障などによるデータ消失のリスクを最小化

- 各クライアントがHDDを持たないため、クライアントの故障によるデータの損失がありません。

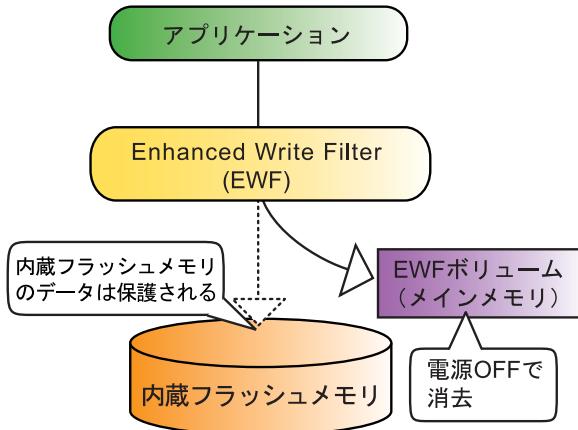
### ■ 情報漏洩に強い

- 各パソコンで作成した情報などはすべてサーバー側に保存されるため、万一本製品が盗難に遭った場合でも情報漏洩のリスクがありません。
- フロッピーディスクドライブや光ディスクドライブなどを搭載しておりません。また、外部記憶媒体による情報漏洩を防ぐために、「Portshutter」を使用してUSBメモリやコンパクトフラッシュカードなどの使用を制限できます。
- セキュリティ設定もサーバー側で行うため、セキュリティポリシーの管理・変更などが容易になります。また、個々のクライアント上での設定ミスが防げます。

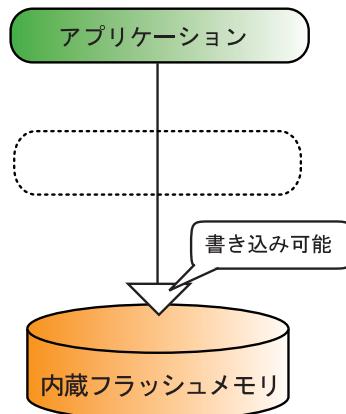
## 内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について

本パソコンの OS や環境設定などのシステムデータは内蔵フラッシュメモリに保存されており、Enhanced Write Filter (以降、EWF と略します) システムによって保護されています。EWF は本パソコン特有のシステムで、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが発生した場合に、それらを内蔵フラッシュメモリに書き込む代わりに全てメモリ上の EWF ボリュームに対して書き込みを行うことで、内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータを保護します。

EWFシステムが有効の場合



EWFシステムが無効の場合



1

特長

この EWF ボリュームへの書き込みは、アプリケーションなどからは内蔵フラッシュメモリ上のシステムデータに書き込みを行ったのと全く同じように見えていますが、実際には書き込まれたデータはメモリ上に記憶されるため、通常の方法でネットワークなどの設定変更を行った場合、本パソコンを再起動すると初期状態に戻ってしまいます。

本パソコンでは、ネットワークの設定などの初期状態を変更したい場合は、「保護管理ツール」を使用してこの EWF システムを一時的に無効にすることにより、内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータに直接書き込むことができます。

「保護管理ツール」については「保護管理ツールについて」(→ P.18) をご覧ください。

### POINT

- ▶ 電源を切らずにスタンバイ状態にした場合は、EWF ボリュームへの記録内容は保持されます。ただし、スタンバイ状態のまま電源が切れた場合は、EWF ボリュームの内容は消去されますのでご注意ください。

## 2 OSについて

### Windows XP Embedded with Service Pack 2について

本パソコンに搭載されているオペレーティングシステムは、Windows XP Embedded with Service Pack 2です。

Windows XP Embedded は Windows XP Professional と同様の操作性をもっていますが、コンポーネント化されたバージョンであるため、目的に合わせて最適な機能のみを実装することができる OS です。本製品では、シンクライアントとしての運用性、安全性のために、必要な機能のみに限定しております。

ご使用にあたっては、富士通パソコン情報サイト「FMWORLD.NET」([http://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_support.html](http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html)) の「お使いになる上での注意事項」をご覧ください。

### 管理者権限とユーザー アカウント

本パソコンのご購入時の設定では、Administrator（コンピュータの管理者）アカウントのみが作成されています。Administrator のパスワードは設定されておりませんので、最初にこのパスワードの設定を行ってください。

その後、必要に応じて新しいアカウントを作成してください。

アカウントの作成方法は次のとおりです。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「ユーザー アカウント」をクリックし、「新しいアカウントを作成する」をクリックして、新しいアカウントを作成します。

#### POINT

- ▶ ユーザー アカウントには、「コンピュータの管理者」と「制限付きアカウント」が用意されています。ご使用になる際には、本パソコンを管理される方用に「コンピュータの管理者」、通常業務でお使いになる方用に「制限付きアカウント」をお使いになることをお勧めします。

#### 重要

- ▶ 本パソコンは、ご購入時は内蔵フラッシュメモリへの書き込みができないように設定されています。Administratorへのパスワードの設定、ユーザー アカウントの追加はご購入時の状態でも行うことができますが、再起動を行うとそれらの設定は消去されて元に戻ってしまいます。  
再起動を行っても設定が保存されるようにするには、「保護管理ツール」を使用して EWF システムを一時的に無効にする必要があります。  
「保護管理ツール」については「保護管理ツールについて」(→ P.18) をご覧ください。

## Windows のパスワード

OS の起動時やリジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで 1 台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法は次のとおりです。

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「ユーザー アカウント」をクリックし、使用するユーザーのパスワードを設定します。

## Internet Explorer

1

特長

本パソコンには Internet Explorer が搭載されておりますが、MetaFrame の Web インターフェースでの使用を主な用途として想定しています。セキュリティの一元管理の観点からも、インターネットの閲覧には「リモートデスクトップ接続」もしくは、「MetaFrame クライアント」を使用し、サーバー側の Internet Explorer を使用することをお勧めします。

## 言語オプションの選択

本パソコンでは、日本語のみの対応となります。

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の「地域と言語のオプション」で使用する言語に日本語以外を選択することが可能ですが、変更は行わないでください。

### ■ 重要

- ▶ EWF システムが有効になっている状態では、設定後に再起動することによって元の状態に戻すことができますが、EWF システム無効（「保護解除」）の状態で変更してしまった場合、以後システムが動作しなくなるなどの不具合の原因となることがあります。管理者の方は十分にご注意ください。  
なお、誤って変更してしまいシステムが動作しなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」（→『取扱説明書』）またはご購入元にご連絡ください。

## ワイヤレス LAN 使用時の通信データの暗号化 (TC8210 の場合)

### ■ 対象機種

- TC8210 (ワイヤレス LAN 搭載モデル)

ワイヤレス LAN を使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他のワイヤレス LAN 搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。

本パソコンには、ワイヤレス LAN のデータを暗号化するための機能が搭載されています。

暗号化およびセキュリティについては、『FMVマニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルをご覧ください。

なお、ワイヤレス LAN (無線 LAN) のアクセスポイント経由でネットワークに接続している場合は、アクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

# 3 セキュリティ

本パソコンは、次のセキュリティ機能をサポートしています。

	TC5210	TC8210
BIOS パスワード	○	○
盗難防止用ロック取り付け穴	○	○
Portshutter	○	○
スマートカード	○	○ <sup>注1</sup>
指紋センサー <sup>注2</sup>	○ <sup>注3</sup>	○
セキュリティボタン	—	○
FeliCa 対応リーダ／ライタ	—	○ <sup>注4</sup>

注1：スマートカードホルダー添付モデル

注2：別売の「ハイオ認証装置」が必要になります。

注3：別売の「指紋認証装置付 OADG キーボード（109 キー /USB）」が必要になります。

注4：FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル

## ■ BIOS パスワード

### ● 不正利用防止

パソコンの起動時やリジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。

管理者用のパスワードは本パソコンを管理される方のみが保管し、通常業務でお使いになる方にはユーザー用パスワードのみを通知されることをお勧めします。

詳しくは、『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「BIOSのパスワード機能を使う」をご覧ください。

## ■ 盗難防止用ロック取り付け穴

### ● 機器の持ち出し防止

本パソコン、またはポートリプリケータの盗難防止用ロック取り付け穴に盗難防止用ケーブルを取り付けることで、パソコン本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、『ハードウェアガイド』の「各部名称」－「各部の名称と働き」をご覧ください。

## ■ Portshutter

### ● 情報の持ち出し防止

USB、PC カード、シリアル、パラレルなどの各ポートの使用を制限するツールです。USB は機器ごとに有効／無効の設定が可能なため、業務上必要な機器を接続しつつ、セキュリティを低下させる恐れのある機器は無効にすることができます。

## ■ スマートカード

- Windows XP Embedded へのログオン認証
- Citrix Presentation Server へのログオン認証

スマートカードは、IC チップ内蔵の接触型のカードでセキュリティ情報を格納します。カードと PIN (Personal Identification Number) 入力で利用者の認証をします。

### □ 対象機種

- TC5210
- TC8210 (スマートカードホルダー添付モデル)

## ■ 指紋センサー

- Windows XP Embedded へのログオン認証
- Citrix Presentation Server へのログオン認証

指紋認証は、なりすましが難しいため個人の特定に適しています。

また指紋認証を使用することにより、パソコン本体が盗難に遭ったり、置き忘れた場合でも情報漏洩のリスクが低減します。

### ○ 重要

- ▶ 本機器の利用にあたっては、別売の「バイオ認証装置」が必要になります。
- ▶ TC5210 をお使いの場合、別売の「指紋認証装置付 OADG キーボード (109 キー/USB)」が必要になります。
- ▶ 指紋認証は、ネットワークに接続され「バイオ認証装置」にアクセス可能な状態でのみ使用できます。ネットワークへの接続前には使用できません。

## ■ セキュリティボタン (TC8210 の場合)

### ● 不正利用防止

本体に装備された4つのボタンの組み合わせにより認証を行います。設定した認証番号の通りボタンを押すまで、電源を入れることができません。

詳しくは、『ハードウェアガイド』の「ハードウェア」-「セキュリティボタン」をご覧ください。

## ■ FeliCa 対応リーダ／ライタ (TC8210 の場合)

- Windows XP Embedded へのログオン認証
- Citrix Presentation Server へのログオン認証

FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデルをお使いの場合、FeliCa 対応 IC カードをパソコン本体にタッチするだけで手軽に確実な認証を行うことが可能です。

### □ 対象機種

- TC8210 (FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル)

## Memo

## 第2章

# 動作環境の設定

本パソコンでの動作環境の設定について説明しています。

1 保護管理ツールについて .....	18
2 ディスプレイ関連 .....	21
3 音量の設定 .....	31
4 通信 .....	36
5 省電力 .....	39

# 1 保護管理ツールについて

「保護管理ツール」を使用して EWF システムの状態を一時的に無効にし、初期設定などの変更を内蔵フラッシュメモリに直接書き込む方法について説明しています。

## ☞ 重要

- ▶ 「保護管理ツール」は、「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンしている場合のみお使いいただけます。

### ■「保護管理ツール」の起動

「保護管理ツール」を起動するには、次のように操作します。

- 1 「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンします。
- 2 通知領域の「保護管理ツール」アイコン  をダブルクリックします。  
「保護管理ツール」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「保護管理ツール」が起動されました。  
「保護管理ツール」を終了するには、画面右上の「閉じる」ボタンをクリックします。

### ■「現在の状態：」を確認する

「保護管理ツール」を起動すると表示される「保護管理ツール」 ウィンドウの「現在の状態：」から EWF システムの状態を確認できます。

#### ● 保護設定

EWFシステムが有効で、内蔵フラッシュメモリへの書き込みが禁止された状態です。アプリケーションなどからの書き込みは、メモリ上のEWFボリュームに書き込まれるため、再起動すると全ての設定が無効となります。

詳しくは、「内蔵フラッシュメモリへの書き込み保護について」(→P.11) をご覧ください。

## POINT

- ▶ ご購入時は、「保護設定」状態に設定されています。

#### ● 保護解除

EWFシステムが無効で、内蔵フラッシュメモリの書き込みが可能な状態です。各種設定を変更する場合は、この状態に切り替えます。

## 初期設定などを変更する

EWFシステムを一時的に無効にし、初期設定などの変更を内蔵フラッシュメモリ内のシステムデータに直接書き込むには、次のように操作します。

### ※ 重要

- ▶ EWFシステムを無効にし、初期設定などを変更した後は、必ず「保護設定」状態に戻し、EWFシステムを有効にしてください。

### ■「保護解除」ボタンを使用する

初期設定などを変更する場合、通常はこのボタンを使用します。

- 1 通知領域の (保護管理ツール) をダブルクリックして起動します。  
「現在の状態：」が「保護設定」になっていることを確認します。
- 2 「保護解除」ボタンをクリックします。  
画面の指示に従い操作します。
- 3 「保護管理ツール」を終了し、本パソコンを再起動します。  
EWFシステムが解除されます。
- 4 「コンピュータの管理者」または、「制限付きアカウント」でログオンし、必要な設定を行います。
- 5 通知領域の (保護管理ツール) をダブルクリックして起動します。  
「現在の状態：」が「保護解除」になっていることを確認します。

### POINT

- ▶ 「制限付きアカウント」でログオンしている場合は、「コンピュータの管理者」のアカウントでログオンし直してください。

- 6 「保護設定」ボタンをクリックします。  
画面の指示に従い操作します。
- 7 「保護管理ツール」を終了し、本パソコンを再起動します。  
EWFシステムが有効になります。
- 8 手順4で行った設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれました。  
設定が反映されていることを確認してください。  
また「保護管理ツール」の「現在の状態：」が「保護設定」になっていることを確認してください。

## ■「反映」ボタンを使用する

「保護設定」状態中に、なんらかの設定を、保護解除をしなくても即座に反映させたいときに使用します。

### ☞ 重要

- ▶ 「反映」ボタンを使用すると、ボタンを押す前までの各種設定が全て内蔵フラッシュメモリに書き込まれます。意図していない設定が書き込まれないためにも、通常の変更には「保護解除」ボタンの使用による変更手順をお勧めします。

- 1 必要な設定を行います。
- 2 通知領域の■(保護管理ツール)をダブルクリックして起動します。  
「現在の状態：」が「保護設定」になっていることを確認します。
- 3 「反映」ボタンをクリックし、「はい」をクリックします。
- 4 「OK」をクリックした後、本パソコンを再起動します。

### ☞ 重要

- ▶ 再起動を行わないと内蔵フラッシュメモリへの書き込みは行われません。  
「反映」ボタンを押した後、必ず本パソコンを再起動してください。

- 5 手順4で行った設定が内蔵フラッシュメモリに書き込まれました。

## ■ 操作を無効にする

「保護管理ツール」ウィンドウで「保護解除」／「保護設定」／「反映」ボタンを使用した後に「設定取消」ボタンを使用すると、その操作を無効にすることができます。

### ☞ 重要

- ▶ 「設定取消」ボタンでは、内蔵フラッシュメモリに書き込まれた変更内容を無効にすることはできません。  
本機能は、本パソコンの設定をご購入時の状態に戻すものではありません。

## 2 ディスプレイ関連

### 解像度と色数について

本パソコンでは、Windows の「画面のプロパティ」 ウィンドウの「設定」 タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。

#### POINT

- 外部ディスプレイの接続方法については、『ハードウェアガイド』の「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」をご覧ください。

### ■ TC5210 の場合

解像度（ピクセル）	色数
800 × 600	中（16 ビット） 最高（32 ビット）
1024 × 768	
1280 × 1024	

#### POINT

- 色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。
- ディスプレイによって、設定できる解像度が異なります。詳細はディスプレイのマニュアルをご覧ください。

### ■ TC8210 の場合

解像度 (ピクセル)	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ <sup>注5</sup>	外部ディスプレイ <sup>注5</sup>
800 × 600	中（16 ビット） 最高（32 ビット） <sup>注1</sup>		
1024 × 768			
1280 × 768 <sup>注2注3注4</sup>			
1280 × 1024 <sup>注2注3</sup>			
1400 × 1050 <sup>注2注3</sup>			
1600 × 1200 <sup>注2注3</sup>			

注1：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注2：この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」 ウィンドウの「設定」 タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」 タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注 3 : 1280 × 768 以上の解像度に設定した場合、仮想デスクトップになります。

仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注 4 : 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注 5 : プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

## □ 注意事項

- 解像度を 800 × 600 以下に選択すると、Windows の画面を通常表示、または全画面表示に変更できます (→ P.23)。
- 外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウでリフレッシュレートを 85Hz 以上に設定できるように見えますが、実際の CRT ディスプレイの走査周波数は各機種の「外部ディスプレイの走査周波数について (TC8210 の場合)」(→ P.29) の表以外の周波数を使用することはできません。
- 解像度を切り替えるときに、一時的に表示画面が乱れることがあります。故障ではありません。
- 画面の解像度や色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のアプリケーションや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。

## 液晶ディスプレイの明るさ設定 (TC8210 の場合)

液晶ディスプレイの明るさは、8段階に調節できます。暗くすると、消費電力が小さくなります。

### ◆ 重要

- ▶ 外部ディスプレイの明るさについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

### ■ 明るさを変更する

キーボードを使用して、液晶ディスプレイの明るさを調節することができます。

【Fn】 + 【F6】 キーを押すと暗く、【Fn】 + 【F7】 キーを押すと明るくなります。

### POINT

- ▶ 次のような場合は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから変更してください。
  - ・本パソコンを再起動した直後
  - ・スタンバイから復帰した直後
  - ・AC アダプタを取り付け、取り外した直後

## 全画面表示と通常表示の切り替え（TC8210 の場合）

液晶ディスプレイを標準または規定の解像度よりも低い解像度に設定したときに、画面がディスプレイ中央に小さく表示または全画面表示されるようにするには、次の手順で設定を変更してください。

### ■ 注意事項

解像度を  $800 \times 600$  以下に選択すると、Windows の画面を通常表示、または全画面表示に変更できます。

### ■ 全画面表示と通常表示を切り替える

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。  
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」ウィンドウが表示されます。
- 3 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 4 次の操作を行います。
  - 液晶ディスプレイの場合  
「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。
  - 外部ディスプレイの場合  
「シングルディスプレイ」の「PC モニタ」をクリックして、チェックを付けます。
  - 同時表示の場合  
「マルチディスプレイ」の「Intel(R) Dual Display Clone」をクリックして、チェックを付けます。
  - マルチモニタの場合  
「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

#### POINT

- ▶ 2 台のディスプレイで同時に表示する場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。  
プライマリ：ノートブック  
セカンダリ：PC モニタ

- 5 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。  
液晶ディスプレイ、外部ディスプレイの場合は、手順 7 に進んでください。
- 6 上の一覧から全画面表示と通常表示を切り替えるディスプレイをクリックします。

## 7 「ディスプレイの拡張」で、お使いになる設定を選択します。

### ●全画面表示（枠なし）

デスクトップが画面全体に拡張されます。

### ●デスクトップの中央

デスクトップが通常表示になります。

### ●アスペクト比を保持

デスクトップがアスペクト比（縦横比）を維持したまま最大拡張されます。

### POINT

▶ 「デスクトップの中央」は、液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。

## 8 「適用」をクリックします。

### POINT

▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をタップします。

## 9 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

### POINT

▶ デスクトップの解像度をご購入時の解像度よりも小さい値に設定した場合、2種類の画面拡張設定が選択できます。

- ・画面全体に拡張

画面全体が縦長に表示されます。

- ・アスペクト比を維持したまま拡張

縦長にはなりませんが、画面の上下に黒いスペースができます。

▶ 液晶ディスプレイ表示または、外部ディスプレイ表示のときは、【Fn】+【F5】キーを押しても、全画面表示と通常表示を切り替えることができます。

同時表示、マルチモニタ表示のときは、キーボードで全画面表示と通常表示を切り替えることはできません。なお、【Fn】+【F5】キーを使って切り替えたときは、パソコンの電源を切ると画面の設定は保存されません。設定を保存するときは、「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」ウィンドウで切り替えてください（→P.23）。

## 表示装置の切り替え（TC8210 の場合）

表示装置の切り替え方法は次のとおりです。なお、表示装置をあらかじめ取り付けてから切り替えてください。表示装置の取り付け方は、『ハードウェアガイド』の「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」をご覧ください。

### ■ 注意事項

- 表示装置の切り替えの設定は次のようにになります。

- ・Windows が起動するまでの間は、BIOS セットアップの設定が有効です。
- ・Windows 起動中は「画面のプロパティ」ウィンドウの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
- ・Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。

- ・外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示の状態に切り替わる場合があります。
- 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。
- 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。
- 液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、VESAで標準化された DDC の規格を満たしていて、かつ本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。本規格を正しく満たしているかどうかに関しては、それぞれの液晶プロジェクタのメーカーにご確認ください。これはプラグアンドプレイを実現するために外部ディスプレイの情報をパソコン本体に伝送できるようにするための規格であり、これを満たしていない液晶プロジェクタには表示することはできません。
- BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。外部ディスプレイにも BIOS セットアップの画面を表示させる場合には、BIOS セットアップの「詳細」-「ディスプレイ設定」を「外部ディスプレイ」に設定してください(→『ハードウェアガイド』の「BIOS」-「メニュー詳細」)。
- 液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- 画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のアプリケーションや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず本パソコンを再起動してください。
- 動画の再生中は、表示装置を変更することができません。一度、動画を再生しているアプリケーションを終了させてから、表示装置を変更してください。

## ■「画面のプロパティ」ウィンドウを使用する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。  
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」ウィンドウが表示されます。
- 3 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 4 次の操作を行います。
  - 1台のディスプレイで表示する場合  
「シングルディスプレイ」の一覧から、表示するディスプレイをクリックして、チェックを付けます。
  - 同時表示の場合  
「マルチディスプレイ」の「Intel(R) Dual Display Clone」をクリックして、チェックを付けます。

### POINT

- ▶ 2台のディスプレイで同時に表示する場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。  
プライマリ：ノートブック  
セカンダリ：PC モニタ

**5 「適用」をクリックします。**  
ディスプレイが切り替わります。

**6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。**

### POINT

- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。
- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行うようにしてください。
  - ・何も表示されない場合  
何も操作しないでお待ちください。15秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押して、表示先を切り替えてください。
  - ・正常に表示されない場合  
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。
    1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」をダブルクリックします。
    2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
    3. 「モニタ」タブをクリックします。
    4. 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定します。
    5. 「OK」をクリックします。
- ▶ 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

## ■ キーボードを使用する場合

表示装置を切り替えるには、【Fn】+【F10】キーを押します。表示装置は次の順に切り替わります。このとき【F10】キーを、間隔を空けて押してください。

液晶ディスプレイ → 外部ディスプレイ → 液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ（同時表示）→ 液晶ディスプレイ…

### POINT

- ▶ キーを押しても表示装置が切り替わらない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。

## マルチモニタ機能 (TC8210 の場合)

本パソコンには、2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できます。

### 重要

- ▶ マルチモニタ機能をお使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
- ▶ マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のアプリケーションを終了してください。
- ▶ マルチモニタ機能をお使いになるときは液晶ディスプレイを「プライマリ」、外部ディスプレイを「セカンダリ」に設定してください。
- ▶ マルチモニタ機能の注意
  - ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
  - ・セカンダリアダプタのみに表示されているアプリケーションを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。アプリケーションおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
  - ・次の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
    - 液晶ディスプレイの全画面表示
    - 一部のスクリーンセーバー
    - 動画再生画面のフルスクリーン表示
    - アクセラレータ機能を使用しての動画再生画面
- ▶ 色数についての注意
  - ・プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の色数を設定しないでください。
  - ・「中」または「最高」に設定してください。

### POINT

- ▶ マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。

## ■ マルチモニタの設定

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「Intel(R) GMA Driver for Mobile」をダブルクリックします。  
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for mobile」 ウィンドウが表示されます。
- 3 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 4 「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。
- 5 「プライマリデバイス」が「ノートブック」、「セカンダリデバイス」が「PC モニタ」であることを確認します。
- 6 「適用」をクリックします。

### POINT

- ▶ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

### POINT

- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

## ■ アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「画面」の順にクリックします。  
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 モニタアイコンを、表示する位置にドラッグします。
- 4 「OK」をクリックします。

## ■ 注意事項

- プラグアンドプレイ対応の表示装置を使用の場合、最大解像度は液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- プラグアンドプレイ非対応の表示装置を使用の場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は外部ディスプレイの最大解像度になります。
- マルチモニタ機能使用時に本パソコンを再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、リフレッシュレートを85Hz以下に設定してください。
- マルチモニタ機能使用時には、【Fn】+【F10】キーを使用して、表示装置を切り替えることはできません。

## 外部ディスプレイの走査周波数について (TC8210 の場合)

ディスプレイドライバにより次の走査周波数を選択することができます。

選択できる走査周波数は、外部ディスプレイ表示のみの場合も同時表示の場合も同じです。

ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
800 × 600	37.9	60
	48.1	72
	46.9	75
	53.7	85
1024 × 768	48.4	60
	56.5	70
	60	75
	68.7	85
1280 × 1024	64	60
	80	75
	91.1	85
1400 × 1050	65.3	60
	82.3	75
	85	85
1600 × 1200	75	60
	81.3	65
	87.5	70
	93.8	75
	106.3	85

### POINT

- お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。
- 「リフレッシュレート」とは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位は Hz）で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります（お使いの外部ディスプレイによって値の上限は決まっています）。
- リフレッシュレートの変更は、次のように設定してください。
  - 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「画面」をダブルクリックします。
  - 「設定」タブをクリックし、ディスプレイリストからリフレッシュレートを変更するモニタを選択します。  
(プライマリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「1」を、セカンダリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「2」を選択します。)

3. 「詳細設定」をクリックします。  
お使いのディスプレイドライバのウィンドウが表示されます。
4. 「モニタ」タブをクリックします。
5. 「画面のリフレッシュレート」から、設定したいリフレッシュレートを選択します。
6. 「適用」をクリックします。
7. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

### 3 音量の設定

音量を調節するには、キーボードで調節する方法と、画面に音量つまみを表示させて調節する方法があります。

また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

#### 画面上の音量つまみで設定する

**1 通知領域の「音量」アイコンをクリックします。**

音量を調節する画面が表示されます。

 **POINT**

- ▶ 通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
  2. 「サウンドとオーディオデバイス」をダブルクリックします。  
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。
  3. 「音量」タブをクリックします。
  4. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
  5. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

**2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。**

「ミュート」をチェックすると音が消え、通知領域の表示も変わります。

 **POINT**

- ▶ 音量つまみを表示しているとき、キーボードで音量を調節すると、音量つまみも動きます。

**3 デスクトップの何もないところをクリックします。**

音量を調節する画面が消えます。

消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

## キーボードで調節する (TC8210の場合)

キーボードで音量を調節するには、【Fn】+【F8】キーまたは【Fn】+【F9】キーを押します。【Fn】+【F8】キーを押すと音量が小さく、【Fn】+【F9】キーを押すと音量が大きくなります。キーボードでの音量の調節は、25段階に設定できます。

### POINT

- ▶ 【Fn】+【F9】キーで音量を大きくしても音が聞こえない場合、スピーカーがミュートに設定されている可能性があります。【Fn】+【F3】キーを押してスピーカーのON/OFFを切り替えてください。スピーカーがONになります。ON/OFFを切り替えると、通知領域の表示も変わります。

また音量を調節する画面でも調節できます（→P.31）。

## 再生時／録音時の音量設定について

### ■ 再生時の音量設定方法

- 1 通知領域の「音量」アイコンをダブルクリックします。  
音量を設定するウィンドウが表示されます。

- 2 バランスや音量などを調節します。

### ■ 録音時の音量設定方法

#### □ TC5210の場合

- 1 通知領域の「音量」アイコンをダブルクリックします。  
音量を設定するウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。  
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「音量の調整」で「録音」を選択します。
- 4 バランスや音量などを調節します。

#### □ TC8210の場合

- 1 通知領域の「音量」アイコンをダブルクリックします。  
音量を設定するウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。  
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HDA Primary input」を選択します。
- 4 「音量の調整」が「録音」になっていることを確認し、「OK」をクリックします。

## 5 バランスや音量などを調節します。

### POINT

- ▶ バランスや音量を設定しても再生時／録音時の音量が小さい、または大きい場合は、音量を設定するウインドウでマイク音量を設定してください。録音時と再生時でそれぞれ設定する必要があります。(TC8210 の場合)
  1. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。
  2. 「Audio Input」または「マイク」の「トーン」をクリックします。
  3. 「そのほかの調整」で「マイクブースト」のチェックを確認してください。  
音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。  
音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

## ■ 設定

ご購入時の音量設定は、次のようになっています。なお、ミュートが「○」の項目は、ご購入時には音が聞こえないように設定されています。

### POINT

- ▶ 表示されていない項目（注 1 が付いている項目）を表示させる場合は、次のように設定します。
  1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
  2. 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。  
項目が表示されるようになります。

## □ 再生時の音量設定（TC5210 の場合）

項目	ミュート	設定する音量
Master Volume	×	パソコン全体の音量
Wave	×	Wave 音源の音量
SW Synth <sup>注 1</sup>	○	ご使用になれます
3D Depth <sup>注 1</sup>	○	ご使用になれます
Mic <sup>注 1</sup>	○	マイク端子に接続したマイクの音量
Line In <sup>注 1</sup>	○	ご使用になれます
CD Player <sup>注 1</sup>	○	ご使用になれます
Video <sup>注 1</sup>	○	ご使用になれます
Aux <sup>注 1</sup>	○	ご使用になれます
Phone <sup>注 1</sup>	○	ご使用になれます
PC Speaker <sup>注 1</sup>	○	ご使用になれます

注 1 : ご購入時には表示されません。  
Multi Channel は、ご使用になれます。

## □ 再生時の音量設定 (TC8210 の場合)

項目	ミュート	設定する音量
Master Volume	×	内蔵スピーカー、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の音量 (ヘッドホン設定時)
Wave	×	Wave 音源の音量
SW Synth	×	ご使用になれません
Line Out	×	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の音量 (ライン出力設定時)
CD Volume <sup>注1</sup>	×	ご使用になれません
Microphone <sup>注1</sup>	○	ご使用になれません
Audio Input <sup>注2</sup>	○	マイク・ラインイン兼用端子の音量 (マイク入力設定時およびライン入力設定時)
PC Beep	×	BEEP 音の音量

## □ 録音時の音量設定 (TC5210 の場合)

項目	選択	設定する音量
Recording Control	—	録音全体のコントロール <sup>注1</sup>
Stereo Mixer <sup>注2</sup>	×	再生音全体の録音音量
Mic	○	マイク端子に接続したマイクの音量
Line In <sup>注2</sup>	×	ご使用になれません
CD Player <sup>注2</sup>	×	ご使用になれません
Video <sup>注2</sup>	×	ご使用になれません
Aux <sup>注2</sup>	×	ご使用になれません

注1：音量およびバランスの調整はできません。

注2：ご購入時には表示されていません。

Multi Channel は、ご使用になれません。

## □ 録音時の音量設定 (TC8210 の場合)

項目	選択	設定する音量
CD Volume <sup>注1</sup>	×	ご使用になれません
Microphone <sup>注1</sup>	×	ご使用になれません
Stereo Mix <sup>注1</sup>	×	再生音全体の録音音量
Audio Input <sup>注2</sup>	○	マイク・ラインイン兼用端子の音量 (マイク入力設定時およびライン入力設定時)

注1：ご購入時には表示されていません。

注2：「Audio Input」のマイクブーストは、通常「オン」の状態で使用してください。ご購入時は「オン」になっています。

## ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える (TC8210の場合)

パソコン本体のヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子は、ご購入時に「ヘッドホン」、「マイク入力」に設定されています。設定を変更することで「ライン出力」、および「ライン入力」として使用することができます。次の手順に従って、設定を変更してください。

### 重要

- ▶ ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続していないときは、切り替えができません。
- ▶ マイク・ラインイン兼用端子に外部機器を接続するときは、外部機器の音量を小さくするか、出力を停止してください。

**1** 機能を切り替えたい端子に機器を接続します (→『ハードウェアガイド』の「各部名称」－「各部の名称と働き」)。

**2** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

**3** 「Realtek HD オーディオ構成」をダブルクリックします。

**4** 「オーディオ I/O」タブをクリックします。

**5** 切り替えたい端子の左側にあるアイコンをクリックします。  
「デバイスタイプ」ウィンドウが開きます。

**6** 使用するデバイスにチェックを付けます。

●ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の場合

ヘッドホン：ヘッドホン・ラインアウト兼用端子として動作します。内蔵スピーカーがミュートされます。

ライン出力：ライン出力として動作します。内蔵スピーカーはミュートされません。

●マイク・ラインイン兼用端子の場合

マイク入力：マイク・ラインイン兼用端子として動作します。

ライン入力：ライン入力として動作します。「Audio Input」のマイクブーストは無効になります。

**7** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

### POINT

- ▶ 次の手順で「ジャック検出を有効にします。」にすると、ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子に機器を接続するだけで、「デバイスタイプ」ウィンドウが自動で開きます。

1. 手順4の「オーディオ I/O」ウィンドウから、「アナログ」の右側にある「コネクタ設定」ボタンをクリックします。

「コネクタ設定」ウィンドウが開きます。

2. 「ジャック検出を有効にします。」にチェックを付け、「OK」をクリックします。

# 4 通信

ネットワーク設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

## LANについて

### ■ LAN を接続する

本パソコンには、下記に対応した LAN が内蔵されています。

- 10BASE-T (IEEE 802.3 準拠)
- 100BASE-TX (IEEE 802.3u 準拠)

### △ 警告



- 雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうなときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けないでください。  
感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

### △ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。  
感電の原因となることがあります。
- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。  
接続するコネクタを間違うと故障の原因となることがあります。

#### 1 次の操作を行います。

- ・ TC5210 の場合  
パソコン本体の電源を切れます (→『取扱説明書』)。
- ・ TC8210 の場合  
パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します (→『取扱説明書』)。

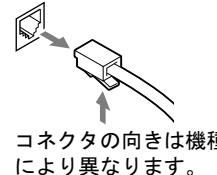
#### 2 パソコン本体の LAN コネクタ (→『ハードウェアガイド』の「各部名称」－「各部の名称と働き」) とネットワークを、LAN ケーブルで接続します。

### 手 重要

- ▶ ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更してください (→ P.39)。  
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるアプリケーションによっては、不具合が発生する場合があります。
- ▶ ネットワークに接続する場合は、AC アダプタを接続した上でのご使用をお勧めします。

## POINT

- ▶ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。
- ▶ ポートリプリケータ接続時には、必ずパソコン本体の LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外してください。LAN ケーブルを取り外さないと、破損の原因となります。(ポートリプリケータ接続時は、本体の LAN コネクタは使用できません。)



コネクタの向きは機種により異なります。

## ワイヤレス LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について (TC8210 の場合)

ワイヤレスLANを使うと、LANケーブルを使わずにネットワークに接続することができます。本パソコンに内蔵されているワイヤレスLANは、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠しており、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11b および IEEE 802.11g に準拠したワイヤレス機器と接続することができます。

ネットワーク接続など設定方法については、『FMVマニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルをご覧ください。

## 重要

- ▶ 『FMV マニュアル』内の「カスタムメイドオプション」にあるマニュアルでは、Windows XP と共に記載されているため、メニューの手順などが異なることがあります、基本的なご使用方法は同じです。
- ▶ 本パソコンにおいては、次の制限がありますのでご注意ください。
  - ・ WPA2/WPA2-PSK は、ご使用になれません。
  - ・ ブリッジ接続は、ご使用になれません。
  - ・ 休止状態は、ご使用になれません。
  - ・ ドライバーズディスクは、添付されておりません。
  - ・ 再インストールを行う場合は、パソコン管理者にご相談ください。

### ■ 対象機種

- ワイヤレス LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) 搭載モデル

### ■ 通信を行うための注意

本パソコンのワイヤレス LAN を使って通信するときの注意事項について説明します。

- 本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) のワイヤレス LAN は、電波法の定めにより屋外では使用できません。本パソコンを屋外でご使用になる場合は、5GHz 帯の電波を停止してください。
  - 最大で 54Mbps ワイヤレス LAN に対応しています。
- 表示の数値は、ワイヤレス LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) (5GHz 帯) では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 (2.4GHz 帯) では見通し半径 25m 以内 (ワイヤレス通信の推奨値) となります。ただし、ワイヤレス LAN の特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、または電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もあります。
- 本パソコンの使用中、特にワイヤレス LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください (→『ハードウェアガイド』の「各部名称」－「各部の名称と働き」)。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体 (電気を通しやすいもの) でできている場所を避けてください。通信性能が低下することがあります。
- 本パソコンに内蔵されているワイヤレスLANは、ワイヤレスLAN製品の相互接続性を検証する「Wi-Fi Alliance」が定義する、ワイヤレス LAN 標準の「Wi-Fi®」に準拠しています。
- 本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠のワイヤレス LAN と Bluetooth® は、同一周波数帯 (2.4GHz) を使用するため、パソコン本体の近辺で使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。この場合、次のように対策してください。
  - ・ Bluetooth® 機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する
  - ・ 10m 以内で使用する場合は、パソコン本体または Bluetooth® 機器の一方の電源を切る
- LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイにしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。なお、本パソコンを使用していない場合は、電源を切ってください。
- 有線 LAN とワイヤレス LAN で、TCP/IP の設定などが競合しないように注意してください。
- 本パソコンをバッテリで運用中にワイヤレス LAN を使用する場合は、バッテリ残量に注意してください。

# 5 省電力

省電力について説明しています。

ご購入時には、一定時間パソコン本体を操作しないと自動的にディスプレイの表示を消したり、スタンバイするよう設定されています。

## スタンバイ

スタンバイを使用すると、Windows を終了しないで節電できます。

### ■ TC5210 の場合

実行中のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してパソコンの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプがオレンジ色に点灯します (→『ハードウェアガイド』の「各部名称」 - 「パソコン本体前面」)。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。

#### □ 留意事項

- パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイ、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイした後は、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンなどで本パソコンをスタンバイ状態に移行させても、まれにすぐにレジュームすることができます。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイ状態に移行させてください。
- 接続している周辺機器が正しく認識されていない場合、スタンバイにならないことがあります。
- スタンバイ時またはレジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイにならない、スタンバイからレジュームしない、レジューム後に正常に動作しない、データが消失するなどの問題が発生することがあります。
  - ・ OS の起動処理中または終了処理中
  - ・ パソコンが何か処理をしている最中、および処理完了直後
  - ・ ファイルアクセス中
  - ・ ネットワークの通信中
  - ・ サウンドや動画の再生中 (WAVE/AVI/MPEG) 形式のファイルの再生中
  - ・ マウスの操作中
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム機能 (Wake up on LAN 機能) を使用すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイ状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。
  1. 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウを表示します (→ P.41)。

2. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」を「20 分後」以上に設定します。

- TCP/IP の設定で DHCP が有効の場合、スタンバイ状態移行時に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れたとき、パソコン本体がリジュームすることがあります。  
この場合は、DHCP サーバーの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。
- スタンバイへ移行させるとときは、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」を選択する（→ P.43）、などの操作）ではなく次のように設定することをお勧めします。この設定を行うと、ファイルアクセス中や通信中などに省電力状態になってしまふことを回避できます。
  - ・「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で移行するまでの時間（例えば「30 分後」）を設定します。
- スタンバイ状態に移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイ状態に移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイ状態に移行できない状態を示します。スタンバイ状態に移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやアプリケーションによっては、不具合（スタンバイからの復帰時に正常に通信できないなど）が発生することがあります。
  - ・ネットワーク環境で通信中に、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」を選択する（→ P.43）、などの操作）によりスタンバイに移行した場合
- 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。

## ■ TC8210 の場合

メモリ内のプログラムやデータを、システム RAM（メモリ）に保持してパソコンの動作を中断させます。スタンバイ中は、状態表示 LCD の電源表示が点滅します（→『ハードウェアガイド』の「各部名称」－「状態表示 LCD について」）。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、接続していない場合はバッテリから供給されます。

## 注意事項

- パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイ、リジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイ状態にした後、すぐにリジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからリジュームするようにしてください。
- リジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- 次の場合は、スタンバイにしないでください。
  - ・ OS の起動処理中または終了処理中
  - ・ パソコンが何か処理をしている最中、および処理完了直後
  - ・ 内蔵フラッシュメモリにアクセス中
  - ・ ネットワークで通信中

- 周辺機器の取り付け／取り外しをする前に、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
- 本パソコンは、低レベルのスタンバイ (ACPI S1) をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合は、本パソコンをスタンバイ状態にしないでください。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム (Wakeup on LAN) を設定すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイ状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。
  1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
  2. 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウを表示します (→ P.41)。
  3. 「電源設定」 タブの「システムスタンバイ」を「20 分後」以上に設定します。

### POINT

- ▶ 設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。

- スタンバイ時にはシステム RAM (メモリ) でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリ運用の場合は、バッテリ残量に留意してください。スタンバイ中にバッテリが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。長時間お使いにならない場合は、データを保存してから Windows を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- バッテリを使っているときのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリを満充電した状態では、約 3 日です。
- お使いになる周辺機器によっては、バッテリ運用時のスタンバイ可能な時間が短くなる場合があります。

## 省電力の設定

### ■ 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウの表示

本パソコンの電源を管理することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「電源オプション」をダブルクリックします。  
「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

### ■ TC5210 の設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

#### □ 「電源設定」 タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。

スタンバイ状態に移行するまでの時間は「システムスタンバイ」で設定してください。

## □「詳細設定」タブ

電源ボタンを押したときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るよう設定されています）。

次のように設定できます。

- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」  
：電源ボタンを押したときの状態を設定できます。
- 「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」  
：スタンバイ状態からレジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる設定を行います。

## □「休止状態」タブ

本パソコンは休止状態に対応していないため、設定することはできません。

## ■ TC8210 の設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

### ■ 重要

- ▶ ネットワークをお使いになるときは、次の設定を行い、省電力機能が働かないようにしてください。  
省電力機能が働いてしまうと、ネットワークからアクセスできなくなることがあります。  
「電源設定」タブの「システムスタンバイ」を「なし」にします。また、「詳細設定」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「何もしない」にします。

## □「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定できます。「電源設定」から「バッテリの最大利用」または「ポータブル／ラップトップ」を選択し、各項目を次のように変更してください。

「システムスタンバイ」：スタンバイするまでの時間を設定できます。

ご購入時は「バッテリの最大利用」になっています。ご購入時設定のままでのご使用をお勧めします。

## □「アラーム」タブ

バッテリの残量が少なくなったときにWindowsが出す警告に関する設定をします。

音で知らせる場合は、次のように設定します。

「アラームの動作」をクリックし、「通知方法」の「音で知らせる」にチェックを付けます。

### ■ POINT

- ▶ 「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」のチェックを外すと、バッテリが切れた時点で予告なく電源が切断されます。作業中に電源が切断された場合、作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

## □「詳細設定」タブ

電源ボタンを押したときや液晶ディスプレイを閉じたときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時は、スタンバイになるように設定されています）。

「電源ボタン」の各項目を次のように変更してください。

- 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」  
：液晶ディスプレイを閉じたときの動作を設定できます。
- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」  
：電源ボタンを押したときの動作を設定できます。

### ☞ 重要

- ▶ 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定で移行したい状態に「何もしない」を選択した場合、本パソコンの動作中に液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、本パソコンが故障する原因となります。

## □「休止状態」タブ

本パソコンは休止状態に対応していないため、設定することはできません。

## スタンバイ状態にする

各項目での動作は「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定によります。スタンバイ状態にするには、次の方法があります。

### ■ シャットダウンメニューを使う

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。

- 2 スタンバイを選択します。  
しばらくするとスタンバイ状態になります。

### ■ 電源ボタンを使う

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定により、電源ボタンを押したときにスタンバイ状態になります（→「省電力の設定」（→ P.41））。

### ☞ 重要

- ▶ TC5210をお使いの場合、ご購入時には、電源ボタンを押すと電源を切るように設定されています。
- 電源ボタンを使用してスタンバイ状態にするには、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウからスタンバイになるように設定を変更してください。
- 詳しくは、「省電力の設定」（→ P.41）をご覧ください。

- 1 内蔵フラッシュメモリアクセスランプ（TC5210）または、状態表示LCDの内蔵フラッシュメモリアクセス表示（TC8210）が点灯していないことを確認します。

**2 電源ボタンを押します。**

しばらくするとスタンバイ状態になります。

**POINT**

- ▶ 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、スタンバイ状態にならざるに本パソコンの電源が切断されます。作業中に電源が切断された場合、作成中のデータが失われることがあります。

**■ 液晶ディスプレイを閉じる (TC8210 の場合)**

「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウでの設定により、スタンバイに移行します。

**重要**

- ▶ 液晶ディスプレイは静かに閉じてください。  
閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

**1 状態表示 LCD の内蔵フラッシュメモリアクセス表示が点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。**

しばらくするとスタンバイ状態になります。

**POINT**

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウの「詳細設定」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「何もしない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイにしないように設定できます。ただし、「何もしない」に設定した場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ▶ 省電力状態になったことを示すピピッという音を確認してください（ボリュームを小さくしていると聞こえません）。スタンバイ状態にならないまま液晶ディスプレイを閉じていると、放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- ▶ 液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイ状態にならない場合、液晶ディスプレイを開いて電源ボタンを押し、スタンバイ状態になったことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。
- ▶ アプリケーションの動作中には、液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイ状態にならない場合があります。アプリケーションの動作が止まった後で、液晶ディスプレイを閉じてください。

## スタンバイ状態からのレジューム

レジュームには、次の方法があります。

### POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外でスタンバイ状態からレジュームさせると、OSの仕様により画面が表示されない場合があります。  
その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本パソコンは再度スタンバイ状態に移行します。

### ■ 電源ボタンを使う

#### 1 電源ボタンを押します。

しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。

### POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウ→「詳細設定」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「シャットダウン」に設定した場合でも、スタンバイ状態で電源ボタンを押すとレジュームします。
- ▶ スタンバイ状態からレジュームする場合は、次の状態になっていることを確認してください。
  - ・TC5210 の場合  
電源ランプがオレンジ色に点灯している
  - ・TC8210 の場合  
状態表示 LCD の電源表示が点滅している

### ■ 液晶ディスプレイを開く (TC8210 の場合)

液晶ディスプレイが閉じているときに液晶ディスプレイを開くとレジュームします。

### ■ LAN 着信によるレジューム (Wakeup on LAN)

他のコンピュータから本パソコンにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。

なお、「LAN 着信によるレジューム」の設定をしているときは、スタンバイ中に液晶ディスプレイを開じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。

ネットワーク環境下で Wakeup on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

#### 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。

#### 2 「スタート」ボタン→「設定」→「ネットワーク接続」の順にクリックします。 「ネットワーク接続」が表示されます。

#### 3 「ローカルエリア接続」をダブルクリックします。 「ローカルエリア接続のプロパティ」が表示されます。

#### 4 「構成」ボタンをクリックします。

「VIA Rhine II Fast Ethernet Adapter のプロパティ」ウィンドウが表示されます。(TC5210)  
「Broadcom 440x 10/100 Integrated Controller のプロパティ」ウィンドウが表示されます。(TC8210)

**5** 「電源の管理」タブをクリックします。

**6** 次の 2 つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。

- ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
- ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする

## 第3章

# ソフトウェア

本パソコンに搭載されているソフトウェアについて説明しています。

3

1 ソフトウェア一覧 ..... 48

# 1 ソフトウェア一覧

本パソコンには、次のソフトウェアが搭載されています。

## 搭載ソフト一覧

- 「Microsoft Windows XP Embedded with Service Pack 2」 (→ P.48)
- 「Internet Explorer 6.0 SP2」 (→ P.48)
- 「Microsoft IME スタンダード 2002」 (→ P.49)
- 「Windows Media Player」 (→ P.49)
- 「FMV 診断」 (→ P.49)
- 「MetaFrame クライアント」 (→ P.49)
- 「リモートデスクトップ接続」 (→ P.49)
- 「Systemwalker Desktop Patrol」 (→ P.49)
- 「SMARTACCESS/PRO」 (→ P.49)
- 「SMARTACCESS/Feel (TC8210 の場合)」 (→ P.50)
- 「保護管理ツール」 (→ P.50)
- 「セキュリティボタン (TC8210 の場合)」 (→ P.50)
- 「Portshutter」 (→ P.51)

## 各ソフトウェアの紹介

### ■ Microsoft Windows XP Embedded with Service Pack 2

Windows オペレーティングシステムのコンポーネント化されたバージョンです。

本パソコンは、Microsoft Windows XP Embedded with Service Pack 2 (SP2) をベースに開発しており、シンクライアント用に最適化しております。

詳しくは、「Windows XP Embedded with Service Pack 2 について」 (→ P.12) をご覧ください。

### ■ Internet Explorer 6.0 SP2

WWW (World Wide Web) ブラウザです。

#### POINT

- ▶ 本パソコンでは、MetaFrame の Web インターフェースでの使用を主な用途と想定しております。セキュリティの一元管理の観点からもインターネットの閲覧の場合には、「リモートデスクトップ接続」または、「MetaFrame クライアント」を使用してのサーバー側 Internet Explorer の使用をお勧めします。
- ▶ EWF システムが無効で内蔵フラッシュメモリへの書き込みが解除された状態では、Internet Explorer よりファイルをデスクトップ上に保存できます。
- ▶ 通常は、「保護管理ツール」において EWF システムを有効にし、内蔵フラッシュメモリへの書き込みができないよう「保護設定」状態にしてご使用ください。

## ■ Microsoft IME スタンダード 2002

日本語入力変換ユーティリティです。

### POINT

- ▶ 次の機能はご使用になれません。  
IME パッドの「手書き」、「音声入力」機能、システム辞書の「郵便番号辞書」、「単漢字辞書」、「話し言葉・顔文字辞書」、「カタカナ語英語辞書」、「記号辞書」、「文字コード辞書」。

## ■ Windows Media Player

マルチメディアコンテンツ再生ソフトウェアです。  
動画や音声の再生に使用できます。

## ■ FMV 診断

ハードウェアの故障箇所を診断します。

## ■ MetaFrame クライアント

Citrix Presentation Server に接続するアプリケーションです。  
サーバー上でクライアント・アプリケーションを動作させ、本パソコン上には画面情報のみを転送し表示させます。そのため、本パソコンでは実データを持ちません。

## ■ リモートデスクトップ接続

ターミナルサーバー、または Windows XP Professional を実行しているほかのコンピュータに接続するアプリケーションです。

## ■ Systemwalker Desktop Patrol

Systemwalker Desktop Patrol（システムウォーカーデスクトップパトロール）は、パソコンのセキュリティ管理と資産管理を容易に実現するデスクトップ管理製品です。  
「スタート」ボタン→「プログラム」→「Systemwalker 資産管理 CT」の順にクリックして起動します。

### POINT

- ▶ 本パソコンの本ソフトウェアには使用権はありません。  
ご使用いただく場合は、別途使用権をご購入ください。

## ■ SMARTACCESS/PRO

Windows ログオン認証など、スマートカードによるセキュリティを提供します。

### □ 対象機種

- TC5210
- TC8210（スマートカードホルダー添付モデル）

## ■ 重要

- ▶ TC8210 のスマートカードホルダー添付モデルには、次の CD-ROM/FD が添付されます。  
CD-ROM/FD に添付されているドライバ／アプリケーションは本パソコンに適用しないでください。
  - ・「SMARTACCESS/BASE V2.0L40A」
  - ・「スマートカードドライバ V1.0」
- ▶ スマートカードを管理／配布するためには、別売のソフトウェア「SMARTACCESS/PRO」をご購入していただく必要があります。  
「SMARTACCESS/PRO」の詳しいご使用方法については、「SMARTACCESS/PRO」添付のマニュアルをご覧ください。

## ■ POINT

- ▶ Windows XP Embedded、Citrix Presentation Server へのログオン認証をサポートしています。

## ■ SMARTACCESS/Feel (TC8210 の場合)

FeliCa 対応リーダ／ライタを使用して、Windows ログオン認証など、FeliCa 対応 IC カードによるセキュリティ機能を提供します。

### □ 対象機種

- TC8210 (FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル)

## ■ 重要

- ▶ TC8210 の FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデルには、次の CD-ROM が添付されます。
  - ・「FeliCa 対応リーダ／ライタソフトウェア CD」

詳しくは、添付の CD-ROM に格納されているマニュアルをご覧ください。  
なお、CD-ROM に添付されているドライバ／アプリケーションは本パソコンに適用しないでください。

## ■ POINT

- ▶ Windows XP Embedded、Citrix Presentation Server へのログオン認証をサポートしています。
- ▶ SMARTACCESS/Feel は、内蔵フラッシュメモリにインストーラ形式で格納されています。

## ■ 保護管理ツール

各種設定を内蔵フラッシュメモリに書き込むためのアプリケーションです。管理者権限でのみご使用になります。

詳しくは、「保護管理ツールについて」(→ P.18) をご覧ください。

## ■ セキュリティボタン (TC8210 の場合)

セキュリティボタンは、パソコンに付属するセキュリティボタンのパスワード設定を簡単に行えるよう支援するユーティリティです。

セキュリティ管理者向け「セキュリティボタン for Supervisor」と一般ユーザ向け「セキュリティボタン」の 2 つのユーティリティがあり、一般ユーザ向けが本パソコンにインストールされています。

## POINT

- セキュリティ管理者向け「セキュリティボタン for Supervisor」は、内蔵フラッシュメモリにインストーラ形式で格納されています。

## ■ Portshutter

USB ポートや PC カード（コンパクトフラッシュカードも含む）などの接続ポートの使用を制限できます。「Portshutter」を使用することにより、パソコンからの情報漏洩やパソコンへの不正なプログラムの導入を防止することができます。

詳しくは、『FMV マニュアル』内の「Portshutter をお使いになる方へ」をご覧ください。

## ※ 重 要

- 無効に設定したポートは、機器を接続してもお使いになれません。
- USB は、接続許可する機器を登録し、それ以外の機器はすべて無効となる設定です。
  - すべての USB を無効にした場合、次のものはお使いになれません。
    - TC5210：スマートカード専用スロット
    - TC8210：指紋センサ、FeliCa 対応リーダ／ライタ
- PC カードを無効にした場合、スマートカードホルダー（TC8210）はお使いになれません。
- パラレル／シリアルポートを無効化した場合、それらに接続されるオプション製品はお使いになれません。

## POINT

- 設定できるポートは、次のとおりです。
  - TC5210
    - パラレル／シリアルポート、および接続される機器
    - USB ポート
  - TC8210
    - PC カード／コンパクトフラッシュカード、および接続される機器
    - パラレル／シリアルポート、および接続される機器（ポートリプリケータ接続時）
    - USB ポート

## Memo

## 第4章

# トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことが  
あったときの対処方法について説明していま  
す。

1	トラブルに備えて	54
2	トラブル発生時の基本操作	56
3	起動・終了時のトラブル	58
4	OS・アプリケーション関連のトラブル	61
5	ハードウェア関連のトラブル	62
6	それでも解決できないときは	71

# 1 トラブルに備えて

ここでは、トラブルを未然に防ぐために注意すべき点や、もしものときに備えて事前に準備すべき点について、説明します。

## テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止するVCCIの基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本パソコンの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点に注意してください。

### ■ 本パソコンの注意事項

- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかりと締めてください。
- 本パソコンのAC電源または、ACアダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

### ■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを、本パソコンから遠ざけてください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

## 自動車内での使用について

パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

## ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けを行う場合は、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア／ソフトウェア要件

使用したい周辺機器やアプリケーションが本パソコンのハードウェア構成やOSで使用できるか確認します。

- 取り付け時やインストール時に注意すべき点

特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報

- 問題が解決されたドライバやアプリケーションの修正モジュール

弊社の富士通パソコン情報サイト「FMWORLD.NET」([http://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_support.html](http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html)) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

## 2 トラブル発生時の基本操作

ここでは、トラブル発生時にまず行うべき操作を説明します。

### 本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？  
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？  
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？  
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？  
キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。  
この他、「電源が入らない」（→ P.58）、「画面に何も表示されない」（→ P.59）もあわせてご覧ください。

### Safe モード

本機能は、Windows XP Embedded では、ご使用になれません。

### メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当する障害を検索する際や、お問い合わせの際に役立ちます。

## 診断プログラムを使用する

本パソコンでは、次のパソコン診断プログラムを用意しています。

FMV 診断でハードウェアの障害箇所を診断できます。

管理者権限を持ったアカウントで実行してください。

### POINT

- ▶ 起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ▶ スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ▶ ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。

**1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FMV 診断」の順にクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

### 3 起動・終了時のトラブル

#### ■ ビープ音が鳴った (TC8210 の場合)

電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、ビープ音が鳴る場合があります。ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。

##### POINT

- ▶ ビープ音によるエラー通知は、「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。ここではビープ音の回数の組み合わせを、「1-2-2-3」のように表記しています。
- ▶ 下表の組み合わせ以外の鳴り方をした場合は、ハードウェアに重大な障害が発生している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

ビープ音の回数	原因と対処方法
1-1-1-1	メモリのテストエラーです。
1-3-3-1	メモリが正しく取り付けられていないか、本パソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。
1-3-3-2	メモリが正しく取り付けてあるか確認してください。正しく取り付けてもビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。市販のメモリを増設している場合は、製造元・販売元にご確認ください。
1-3-4-1	
1-3-4-3	
1-4-1-1	

#### ■ メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『ハードウェアガイド』の「BIOS」 - 「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

#### ■ 電源が入らない

##### □ TC5210 の場合

- 電源ケーブルは接続されていますか？  
接続を確認してください。
- 電源スイッチ付きの AC タップをお使いの場合、AC タップの電源は入っていますか？

##### □ TC8210 の場合

- AC アダプタは接続されていますか？  
ご購入後最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。また、電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合は、ACタップの電源をONにしてください。
- バッテリは充電されていますか？(バッテリ運用時)  
状態表示LCDでバッテリ残量を確認してください。バッテリが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してお使いください。

- 長期間未使用状態ではありませんでしたか？

長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、ACアダプタを接続してから電源を入れてください。

## ■ 画面に何も表示されない

### □ TC5210 の場合

- パソコン本体の電源は入っていますか？
- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
  - ・電源スイッチは入っていますか？
  - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
  - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
  - ・ディスプレイの電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか？
  - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
- パソコン本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
- 省電力モードが設定されていませんか？  
パソコン本体の電源ランプがオレンジ色になっている場合は、ACPI モードの高度（ACPI S3）に移行している可能性があります。パソコン本体の電源ボタンを押してください。電源ボタンを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源ボタンを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。
- 周辺機器は正しく取り付けられていますか？

### □ TC8210 の場合

- 状態表示 LCD に電源表示が点灯していますか？
  - ・点灯している場合  
【Fn】+【F6】キー、または【Fn】+【F7】キーを押して明るさを調節してください。
  - ・点滅または消灯している場合  
電源ボタンを押して動作状態にしてください。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、ACアダプタを接続して充電してください。  
ACアダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- 状態表示 LCD に何か表示されていますか？  
状態表示 LCD に何も表示されていないときは電源が入っていません。パソコン本体の電源を入れてください。
- キーを操作していましたか？  
本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。
- 外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？  
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。  
「動作環境の設定」—「表示装置の切り替え (TC8210 の場合)」(→ P.24) をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

- 外部ディスプレイを使用している場合（→ P.24、→ P.27）、次の項目を確認してください。
  - ・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
  - ・セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？  
必ずセットアップ後に接続してください。
- 解像度や走査周波数は、外部ディスプレイに合った設定になっていますか？（外部ディスプレイに表示している場合）  
そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。  
その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。  
「動作環境の設定」—「外部ディスプレイの走査周波数について（TC8210 の場合）」（→ P.29）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してから、外部ディスプレイ表示への切り替えを行ってください。（→ P.24）

## ■ マウス／ポインティングデバイスが使えないため、Windowsを終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
  1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。  
「スタート」メニューが表示されます。
  2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

マウスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

## ■ Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。
  1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。  
「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
  2. 「シャットダウン」をクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
  3. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。  
この操作で強制終了されないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

### POINT

- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。

# 4 OS・アプリケーション関連のトラブル

ここでは、OS、アプリケーションに関連するトラブルを説明します。トラブルに合わせてご覧ください。

## ■ Windows が起動しなくなった

- 周辺機器を取り付けませんでしたか?  
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください。  
もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- TC8210のスマートカードホルダー添付モデルでスマートカードの作成や、BIOSロック用パスワードを設定せずに BIOS セットアップを次のように設定すると、Windows の起動ができなくなります。  
・「セキュリティ」メニューー「スマートカードによるロック」：使用するこの場合は、修理が必要となりますので、ご購入元にご連絡ください。

## ■ 省電力機能が実行されない

- 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。  
省電力機能の詳細については、「動作環境の設定」－「省電力」(→ P.39) をご覧ください。

## ■ ログオン時に Windows 起動音が再生されるのが遅い

- DHCP より IP アドレスが取得されていない可能性があります。  
ネットワーク環境をご確認ください。

## ■ 次のメッセージが表示される

- 管理者権限を持ったユーザーがスタートアップに「Program Neighborhood エージェント」を登録していないにもかかわらず、システム起動時に「Program Neighborhood エージェントが設定情報を更新できません。Web Interface サーバーが使用できないか、または URL が間違っている可能性があります。あるいは、設定ファイルの内容にエラーがあるか、または保存場所が正しくない可能性があります。」と表示される。
- 保護管理ツール起動時に、「関数 EwfMgrGetProtectedVolumeConfig でエラー (00000001) が発生しました。」

初めて電源を入れ、システムが初期設定を行っている時に、電源を切ったりしませんでしたか？誤って初期設定中に電源を切ってしまった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」(→『取扱説明書』) またはご購入元にご連絡ください。

## 5 ハードウェア関連のトラブル

ここでは、ハードウェアに関連するトラブルを説明します。

どのハードウェアに関連するトラブルかわからない場合は、まず「ハードウェア関連のトラブル一覧」(→ P.62) をご覧ください。

### インターフェースのご使用について

- 本製品では、あらゆる周辺機器の動作を保証するものではありません。ご使用になる周辺機器については、ご購入元にご確認ください。
- 指紋センサーをお使いになる場合は、別売のバイオ認証装置(Secure Login Box)が必要です。
- TC8210 の FeliCa 対応リーダ／ライタ搭載モデル、またはスマートカードホルダー添付モデルをお使いの場合、添付の CD-ROM 内にあるドライバおよびアプリケーションは使用しないでください。

### ハードウェア関連のトラブル一覧

- BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→ P.63)
- 「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」(→ P.63)
- 「エラーメッセージが表示された」(→ P.63)
- パソコン本体起動時に「エラーメッセージが表示された」(→ P.63)
- 「BIOS セットアップが起動しなくなった」(TC8210 の場合) (→ P.63)
- 「ネットワークに接続できない」(→ P.63)
- 「ネットワーククリソースに接続できない」(→ P.64)
- 「PC カードが使えない」(TC8210 の場合) (→ P.65)
- 「スマートカードが使えない」(→ P.65)
- 「エラーメッセージが表示された」(→ P.65)
- 「バッテリ残量表示の点滅が止まらない」(TC8210 の場合) (→ P.65)
- 「状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している」(→ P.66)
- 「状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している」(→ P.66)
- 「バッテリが充電されない」(TC8210 の場合) (→ P.66)
- 「画面に何も表示されない」(→ P.66)
- 「ディスプレイの表示が見にくい」(→ P.66)
- 「液晶ディスプレイが閉まらない (TC8210 の場合)」(→ P.67)
- 「表示が乱れる」(→ P.67)
- 「画面の両サイドが欠ける (TC5210 の場合)」(→ P.67)
- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」(→ P.67)
- 「マイクからうまく録音ができない」(→ P.68)
- 「押したキーと違う文字が入力される」(→ P.68)
- 「マウスカーソルが動かない」(→ P.68)
- 「マウスカーソルが正しく動作しない (光学式マウスの場合)」(→ P.69)
- 「マウス／ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない」(→ P.69)

- 「USB デバイスが使えない」 (→ P.69)
- 「プリンタを使用できない」 (→ P.69)
- 「言語オプション選択で日本語以外を選択した後、起動しなくなった」 (→ P.70)
- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」 (→ P.70)

## BIOS

### ■ 管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかるわらず修理は有償となります。

### ■ ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」をご覧ください。

### ■ エラーメッセージが表示された

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

### ■ BIOS セットアップが起動しなくなった (TC8210 の場合)

スマートカードホルダー添付モデルでスマートカードの作成や、BIOS ロック用パスワードを設定せずに BIOS セットアップを次のように設定すると、BIOS セットアップの起動ができなくなります。

「セキュリティ」メニュー「スマートカードによるロック」：使用するこの場合は、修理が必要となりますので、ご購入元にご連絡ください。

## 内蔵 LAN

### ■ ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？  
パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
  - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
  - ・100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 のケーブルを使用してください。

- 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」→「CMD」で次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。
 

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

 (nnn には通信相手の IP アドレスを入力します)
- ハブに関して、次の項目を確認してください。
  - ・電源は入っていますか？
  - ・ACT/LNK ランプは点灯していますか？
  - ・Speed (1000Mbps/100Mbps/10Mbps/Auto) 、 Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、パソコン側の設定と合っていますか？
- 通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。
- スタンバイ状態にしませんでしたか？
 

LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイ状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。
- ネットワークケーブルおよび AC アダプタを接続していない状態で起動しましたか？  
ご購入時の設定では、ネットワークケーブルおよび AC アダプタを接続していない状態で起動すると、LAN 機能は使えません。いったん電源を切り、ネットワークケーブルを接続してから起動してください。
- バッテリ運用時に電源を入れたとき、再起動したとき、ネットワークケーブルが接続されていますか？
 

ご購入時の設定では、バッテリ運用時に電源を入れたとき、再起動したとき、ネットワークケーブルが接続されているかどうかを確認します。

このときネットワークケーブルが接続されていないと、省電力のため内蔵 LAN が使用不能になります。

内蔵 LAN を使用する場合は、ネットワークケーブルまたは AC アダプタを接続した状態で電源を入れるか、パソコンを再起動してください。

## ■ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

## デバイス

### ■ 機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？
- 次の機器が使用できない場合は、システム管理者に「Portshutter」のポート設定が有効になっているか確認してください。
 

情報漏洩や不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。

  - ・ USB
  - ・ PC カード、コンパクトフラッシュカード

- ・シリアル
- ・パラレル

## PCカード(コンパクトフラッシュカードを含む)(TC8210の場合)

### ■ PC カードが使えない

- PC カードスロットに正しくセットされていますか?  
PC カードが正しくセットされているか確認してください。
- 16bit対応のPCカードの場合、カードによってはPCカードが使うIRQを予約する必要があります。  
PC カードのマニュアルをご覧ください。
- PC カードのドライバはインストールされていますか?  
Windows にあらかじめ登録されていないPC カードの場合は、PC カードに添付されているドライバ (各 OS に対応したもの) をインストールする必要があります。PC カードに添付されているマニュアルをご覧ください。

## スマートカード

### ■ スマートカードが使えない

- スマートカードがスマートカードスロットに正しくセットされていますか?  
スマートカードは、専用のスマートカードスロットにセットしてお使いください。

### ■ エラーメッセージが表示された

- スマートカード使用時にエラーメッセージが表示された場合は、「SMARTACCESS/PRO」に添付のマニュアルをご覧ください。

4

## バッテリ (TC8210 の場合)

トラブルディング

### ■ バッテリ残量表示の点滅が止まらない

- バッテリは正しく取り付けられていますか?  
バッテリが正しく取り付けられているか確認してください。正しい場合は、バッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。
- LOW バッテリ状態ではありませんか?  
AC アダプタを取り付けてバッテリを充電してください。

## ■ 状態表示 LED のバッテリ残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している

- バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでもレッド点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください (『ハードウェアガイド』の「ハードウェア」—「バッテリパックを交換する」)。

## ■ 状態表示 LED のバッテリ充電ランプがオレンジ色に点滅している

- バッテリ運用直後ではありませんか？  
バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリ充電ランプがオレンジ点滅することがあります。しばらくして、バッテリの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリ残量を表示します (『ハードウェアガイド』の「ハードウェア」—「バッテリを充電する」)。

## ■ バッテリが充電されない

- ACアダプタは接続されていますか？  
ACアダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- バッテリが熱くなっていますか？  
状態表示LCDのバッテリ充電表示が点滅、または状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。  
周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることができます。
- パソコン本体が冷えていませんか？  
状態表示LCDのバッテリ充電表示が点滅、または状態表示LEDのバッテリ充電ランプがオレンジ点滅します。  
バッテリの温度が5°C以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を止めることができます。
- 充電を途中で中断させていませんか？  
充電を始めてから、状態表示LCDのバッテリ充電表示が消灯するまでの間に本パソコンを使用したり、ACアダプタを取り外したりすると、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼働させ、バッテリ残量が89%以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、状態表示LCDのバッテリ充電表示が消灯するまでACアダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

## ディスプレイ

### ■ 画面に何も表示されない

- 「電源が入らない」(→P.58)、「画面に何も表示されない」(→P.59)をご覧ください。

### ■ ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？  
ディスプレイの角度を調節してください。

- 明るさなどを調節しましたか？
  - ・TC5210をお使いの場合  
明るさをディスプレイのライトネスボリュームで調節してください。
  - ・TC8210をお使いの場合  
【Fn】+【F6】キー、または【Fn】+【F7】キーを押して調節してください。

## ■ 液晶ディスプレイが閉まらない (TC8210の場合)

- 間に物がはさまっていませんか？

無理に閉めようすると液晶ディスプレイに傷をつけることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

## ■ 表示が乱れる

- アプリケーションを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
  1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
  2. タスクバーに最小化されたアプリケーションのボタンをクリックします。

### POINT

▶ Windows起動時および画面の切り替え時に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか？  
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください(→P.54)。

## ■ 画面の両サイドが欠ける (TC5210の場合)

- 使用しているディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。

## サウンド

### ■ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

#### □ TC5210の場合

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
  - ・パソコン本体と正しく接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
  - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
  - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
  - ・ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- OSの「音量の調整」または「ボリュームコントロール」などの設定（ミュートや音量など）を確認してください。
- 音が割れる場合は音量を小さくしてください。

## □ TC8210 の場合

- 内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
  - ・スピーカーの出力はONになっていますか？  
【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの出力を確認してください。
  - ・音量は正しく調節されていますか？  
【Fn】+【F8】キー、または【Fn】+【F9】キーを押して、適正な音量にしてください。
- 音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください（→「動作環境の設定」－「音量の設定」（→P.31））。
- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- ヘッドホン・ラインアウト兼用端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？

## ■ マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？

音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳細については、「動作環境の設定」－「音量の設定」（→P.31）をご覧ください。

## キーボード

---

## ■ 押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLk】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？  
キーボードのインジケータまたは状態表示LCDで、NumLk表示やCapsLock表示が点灯していないか確認してください。
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？  
次の手順で確認してください。
  1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。  
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  2. 「キーボード」をクリックします。  
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
  3. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

## マウス／ポインティングデバイス

---

## ■ マウスカーソルが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？  
マウス内部をクリーニングしてください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていますか？（光学式マウスの場合）  
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

## ■ マウスカーソルが正しく動作しない（光学式マウスの場合）

- 次のようなものの上で操作していませんか？
  - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
  - ・光沢のあるもの
  - ・濃淡のはつきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
  - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

## ■ マウス／ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用して Windows を終了してください（→ P.60）。

## USB

### ■ USB デバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？  
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- USB デバイスがハブ以外に接続されていますか？  
USB デバイスは本体に直接接続してください。
- USB デバイスに不具合はありませんか？  
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。  
パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

## プリンタ

### □ プリンタを使用できない

次の点を確認してください。

- プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
- ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
- プリンタの電源は入っていますか？
- プリンタドライバは正しくインストールされていますか？  
プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
- ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
- ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.63）

## その他

---

### ■ 言語オプション選択で日本語以外を選択した後、起動しなくなった

- 本パソコンでは、日本語のみの対応となります。  
詳しくは、「言語オプションの選択」(→ P.13) をご覧ください。  
言語オプション変更後に、本パソコンが起動しなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」(→ 『取扱説明書』) またはご購入元にご連絡ください。

### ■ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通パソコン情報サイト「FMWORLD.NET」([http://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_support.html](http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html)) で公開しています。  
必要に応じてご覧ください。

# 6 それでも解決できないときは

本パソコンについてどうしても解決できない場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

尚、サーバー／ネットワークに関しては、担当営業または、ご購入元にお問い合わせください。

## お問い合わせ先

### ■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

## Memo

# 索引

## F

FMV 診断 ..... 49, 57

## I

Internet Explorer 6.0 SP2 ..... 48

## L

LAN ..... 36

LAN 着信によるレジューム ..... 45

## M

MetaFrame クライアント ..... 49

Microsoft IME スタンダード 2002 ..... 49

Microsoft Windows XP Embedded with

Service Pack 2 ..... 48

## P

Portshutter ..... 51

## S

Safe モード ..... 56

SMARTACCESS/Feel ..... 50

SMARTACCESS/PRO ..... 49

Systemwalker Desktop Patrol ..... 49

## W

Wakeup on LAN ..... 45

Windows Media Player ..... 49

## あ行

色数 ..... 21

## か行

解像度 ..... 21

外部ディスプレイの走査周波数 ..... 29

## さ行

省電力 ..... 39

スタンバイ ..... 39

セキュリティボタン ..... 50  
全画面表示と通常表示の切り替え ..... 23

## た行

ディスプレイの明るさ設定 ..... 22

## は行

表示装置の切り替え ..... 24  
保護管理ツール ..... 50

## ま行

マルチモニタ機能 ..... 27

## ら行

リモートデスクトップ接続 ..... 49

## わ行

ワイヤレス LAN ..... 37

---

FMV-TC5210, FMV-TC8210

ソフトウェアガイド  
B6FH-8211-02-00

発行日 2005年12月  
発行責任 富士通株式会社

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。